



『老人物語』

土岐の高山城が、森氏の攻撃を受けて落城した。城主平井頼母の嫡男である岡之助は、側女まのとの息子の助五郎を連れ、まのの実家のある久尻村土合の里に隠れ住んだ。しかし、まのの母が後の災いを恐れるあまり、敵方に居所を密告したため、岡之助は討ち取られてしまった。まのは助五郎をつれて妻木の中垣氏を頼り、瀬戸品野へ落ちのびた。

助五郎は七歳になった頃、土岐一族の肥田惣右衛門の養子となった。惣右衛門は、深い由緒を持つ平井家の者を養子に迎えるというので、名字を平井に変えたそうだ。

高田・欠築【平井家のこと】

たじみ昔
かわら版
No.40

「ばけばけ」だけじゃない
多治見の怪談・伝説川北編 1

長瀬 中之郷 小名田 高田・欠築

かけやな

Mar.2026

中之郷【僧文秀のこと】

中之郷の僧、文秀は、庄屋の娘と深い仲だったのをある男に知られ、金子で口止めしようとした。男は金を受け取ったにもかかわらず、言いふらしてしまった。怒った文秀は、人形に刀を何度も突き立てて男を呪った。そのせいか、男はまもなく死んでしまった。

それから十日も経たぬうちに、文秀は突然裸で走り回るようになった。止まると地面から刀が生えてきて足を刺されるとわめき、絶えず動きつづけていた。話を聞いた土地の代官が文秀を馬にのせて連れて行ったが、文秀は馬の上でも刀に刺されるとさけび続けた。「剣樹刀山」という地獄に、生きながら落ちてしまったのだった。



『片仮名本 因果物語』
(国立国会図書館蔵)



小名田【小滝のお不動さま】

小名田にたいそう信心深い男がいた。ある晩、目をわずらっていたその男の夢に不動明王が現れ、「小滝の滝つぼの中に落ちてしまった。滝つぼは寒く、長年お参りに来る者もない。探し出して滝の見える日あたりの良い場所に置いてくれれば、汝の目を治してやる」と言われた。さっそく家族総出で滝つぼをさらい、埋もれていたお不動さまを見つけ、日のおたる場所におまつりした。

二十一日間の願掛けをして迎えた満願の日、男の目はすっかり良くなっていった。男はその後、お不動様の縁日には欠かさず滝にお参りしたという。

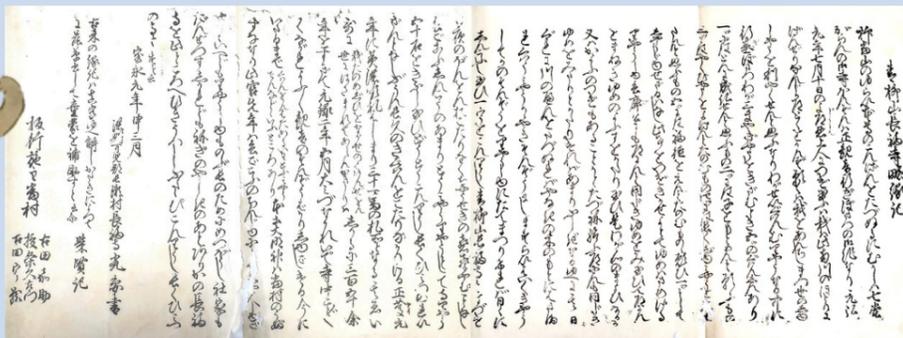


挿入画『百鬼夜行絵巻』『付喪神絵巻』(国立国会図書館蔵) 一部改題

長瀬【長福寺のはじまり】

元弘元年のある夜、道忍上人の夢に観音さまが現れ、「私は川のほとりにいる。人々に恵みを与えたいので、私をまつてくれ」と言われた。翌朝、長瀬領主の兵庫公も同じ夢を見たと聞いて、何とも不思議なことだと思い、日暮れに土岐川のほとりを訪れたところ、柳の木のもと光り輝く仏像を見つけた。兵庫公は立派なお寺を建ててその仏像をまつり、青柳山長福寺と名付けた。

その後、寺が大水で全て流されるも、何とか仏像だけは救い出し、現在の場所に寺を移したと伝わる。



『青柳山長福寺略縁記』(長福寺蔵)



多治見について調べるなら
郷土資料室へ

多治見市図書館郷土資料室

地域に関する資料や皆様から寄せられた文書や記録などを、整理・保存しています。資料は、調べ学習や研究にもご利用いただけます。地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までどうぞ。皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供などもお待ちしております。

〒507-0034 多治見市豊岡町 1-55 ヤマカまなびパーク 4階 JR多治見駅より徒歩5分 TEL. 0572-23-3783
開室：火～土曜日 10時～17時(日・月・祝日・年末年始は休室) ※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください。

